

事業完了報告書（豊中市教育委員会）

調査研究期間等

調査研究期間	令和6年5月29日 ～ 令和7年3月15日
調査研究事項	I. 教育課程、教育環境整備に関すること 研究テーマ ② 不登校経験者向けの支援の在り方 ③ 中学校教育を実施するに必要な、日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方
調査研究のねらい	② 不登校経験者向けの支援の在り方 学齢時に不登校を経験し、義務教育を十分に受けることができなかった生徒については、不登校の経験に起因した自尊感情の高まりにくさや、その後の社会生活における様々な困難さゆえの自己への評価の低さが課題となる傾向がある。 そこで、次の（１）～（３）に掲げる事項を相互に関連付けながら、当該生徒の自己肯定感、自尊感情を高めるような効果的な支援の在り方を研究し、成果のあった取組みをその後の支援に活かすとともに、夜間中学校関係者が対象の連絡会等において情報発信を図っていく。 （１）普段の学校生活における安心して自己表現できる環境づくり （２）行事や校外学習における体験活動や表現活動の充実 （３）作品制作における自己表現の機会の充実と市民向け展示発表の実施 ③ 中学校教育を実施するに必要な、日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方 日本語を母語としない生徒で、高校への進学を希望する生徒が毎年いる。入学志願書等の書類を日本語で書くことができるようにするための日本語指導は重要であり、進学に係る書類以外にも日本語の複雑な書類に触れる機会は多くあるため、翻訳文書を活用した日本語指導の在り方を研究する。 また、入学希望者面談、学期末懇談及び健康診断等に通訳者を派遣することにより、母語による確実な意思疎通、生徒理解に努めるとともに、生徒の不安を軽減し、生徒が安心して学校生活を送ることができる教育環境づくりを行う。通訳者派遣後には、アンケート等によりその効果検証を行い、よりよい支援体制づくりにつながるよう研究を行う。 ② 不登校経験者向けの支援の在り方 （１）普段の学校生活における安心して自己表現できる環境づくりについて 授業において、他の生徒との協働的な学びの機会を多く取り入れ、他者との関わりや他者からの肯定的な評価により、自身に対する否定的な

	感情を肯定的なものへ変化させる契機としたい。 ・ 教員による懇談や日常的な関わりの中で、肯定的な評価を具体的な場面に結び付けて伝えていく。そのことにより、その後の学校生活で生徒に変容が見られたことについては教員で共有し、指導に生かしていく。 (2) 行事や校外学習における体験活動や表現活動の充実について ・ 校外の学習の場を(1)により日頃から培っている肯定的な感情や自信を発揮する場として捉え、体験活動や表現活動等の経験を積むことで、さらに自己肯定感、自尊感情が高まっていくことをめざす。 ・ 体験活動を通して多様な他者と関わったり、知見を広げたりすることができるような場を設定する。 ・ 行事後には、生徒が感想を述べたり、感想文等を書いたりする機会を積極的に設ける。体験を言葉に表すことにより、生徒が自身の変化を自覚する契機となる。また、これらの資料を定性的検証の材料とし、次の行事への適切な支援につなげる。 【連合行事】…新入生歓迎集会(5月)、連合運動会(10月)、 新入生歓迎集会や連動運動会では、何百人もの同じ立場の学友が集まっているという安心感により、自己開示が促されることや、自己開示できたことに対する達成感もより大きなものとなることなどが期待できる。 【校外行事】…校外学習(5月)、学習旅行(9月) 日常生活とは異なる環境の中へ赴き、級友と共に、学んだり、知見を広めたりすることで、自己を解放し、自尊感情が高まることが期待できる。 【交流活動】…市内小中学校の児童生徒との交流(通年) 夜間学級外の学齢の児童生徒と交流することにより、夜間学級生徒としての自己を見つめなおしたり、自己表現したりすることで、自尊感情が高まることが期待できる。 【自己表現】…総合学習発表会(11月) 校外からの参観者に対して表現、発表することにより、自己開示ができたことに対する達成感や、肯定的評価を受けた時の達成感が、より大きくなることが期待できる。 (3) 作品制作における自己表現の機会の充実と情報発信の実施 ・ (1)や(2)により体験したこと等を作品制作として自己表現することを通して、自身の体験のメタ認知による肯定的感情や自信の深まりにつなげる。 ・ 作品展を見学した市民の感想文等にかかれている肯定的な感想を生徒にフィードバックすることで、これまであまり体験してこなかった他者からの肯定的評価を得る機会により、自己肯定感や自尊感情の高まりにつなげる。 ・ 文字による表現の集大成として、年度末には文集を作成する。そしてこれを近畿夜間中学校連絡協議会加盟各校、豊中市立全小・中・義務教育学校、豊中市教育委員会事務局関係部署、大阪府教育庁関係部署、公
--	--

	益財団法人とよなか国際交流協会、大阪府立桜塚高等学校定時制の課程等に向けて発信し豊中市立第四中学校夜間学級の取り組みを広く周知していく。 【市民向け展示発表】…校外作品展（通年）市内6ヶ所で開催 校内作品展（1月） 連合作品展（2月） ③ 中学校教育を実施するに必要な、日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方 （１）翻訳文書を活用した日本語指導の在り方の研究について ・高校等へ進学のためのガイダンス資料の作成や日常生活における日本語の書類について、翻訳文書を活用することにより日本語指導につなげる。 【翻訳文書を活用した日本語指導の場面】 入学時オリエンテーションに係る書類の理解（4月、9月） 就学援助受給申請に係る書類の作成（6月～9月） 進路指導に係る書類の作成（2～3月） （２）通訳者派遣による安心して学校生活を送ることができる環境づくり ・通訳者派遣により母語による確実な意思疎通、生徒理解に努める。生徒にとっては、不安の軽減につながることが期待される。 【通訳者派遣】 入学希望者面談（通年） 学校医による健康診断（5～7月） 学期末懇談（7月、12月） 進路指導に係る懇談（1～3月） （３）アンケートの実施による効果検証 ・翻訳文書の活用や通訳者派遣による支援を実施した直後に、生徒に対してアンケートを実施し、その効果検証をするとともに、その後の支援体制づくりに生かす。
調査研究の成果	②不登校経験者向けの支援の在り方 （１）普段の学校生活において安心して自己表現できる環境づくりについて ・授業においては、協働的に学ぶ機会を多く取り入れた。また、生徒が他者との関わりを通して自己肯定感を高めるきっかけを得られるような授業展開、授業改善を全ての教員が心がけた。結果、今年度は授業への出席率や行事への参加率が例年と比較すると高い傾向となった。 ・毎日の授業後と月に2回の定例ケース会議にて、生徒の状況や変化などを細かく共有し、見立てを立てることに努めた。その結果、長期欠席傾向

	から復帰できるケースが複数件あった。 (2) 行事や校外学習における体験活動や表現活動の充実について ・近畿夜間中学校の連合行事である新入生歓迎集会と連合作品展に参加し、他の夜間中学校の生徒との交流を積極的に行った。その結果、充実した体験活動の実施につながり、自己定感を高めることにもつなげることができた。以下、生徒のふり返りの一部を紹介する。(原文のまま) 【ふり返り】 「たくさんの学校の生徒に会えてとても楽しかった。」 「新しい友だちに会えて嬉しかった。」 「学校によって作っているものが違って、楽しい感じがした。」 」 「ためになった。いろいろな作品を見てこれからのことを考えた。」 」 「司会をするチャンスをもらい、よくできた。」 「他の学校の前で話して緊張した。」 「不安だったが、自己紹介を言えてよかった。」 ・校外学習や学習旅行では、校内の学習だけでは経験できない活動や体験を通して、自己を開放したり、母国のよさに改めて気づいたりすることで、自己肯定感を高めることにつながった。そして、校内の学習へ取り組む姿勢についても以下、生徒のふり返りの一部を紹介する。(原文のまま) 【ふり返り】 「イルカは初めて見た。いろいろな魚を見て楽しかった。」 「イルカのショーを楽しみにしていた。短かったのが残念。」 「ごはんをみんなで食べたのが楽しかった。」 「シリア(母国)の話ができてよかった。」 「最初は恥ずかしかったけど、みんなで歌って自信がついた。ネパールの歌をみんなで歌って楽しかった。」 「ネパールの民謡をほかの国の人とも歌えて楽しかった。」 (3) 自己表現の機会の充実と情報発信の実施 ・今年度実施した作品展、学習発表会は以下のとおり。 7/10-17 校外作品展(豊中市立庄内公民館) 7/26-8/30 校外作品展(豊中市立服部図書館) 9/2-9/30 校外作品展(豊中市立高川図書館) 10/17-11/29 校外作品展(豊中市立東豊中図書館)
--	--

	11/28 総合学習発表会 (学校行事) 11/29-12/24 校外作品展 (豊中市立岡町図書館) 2/13-3/17 校外作品展 (とよなか国際交流センター) 1/28-29 校内作品展 (学校行事) 2/9 連合作品展 (大阪市立天満中学校) ・校外作品展では、広く市民の方に向けて作品を公開し、多くの肯定的感想が寄せられた。それらを生徒にフィードバックすることによって、生徒の自己肯定感を高めるとともに、次の創作意欲にもつなげることができた。以下、感想の一部を紹介する。 「人が想いをもって学べる場所にはたくさんのエネルギーが生まれるのだと作品から感じ取れた。」 「気持ちや熱意が伝わってきた。」 「歌、作文、劇の言葉に、文字に、生き方や人生が込められていたから心を揺さぶられた。」 感想には「初めて夜間学級を知った」「夜間学級のことをもっと知りたい」という夜間学級に対するものも多く、校外作品展が広報・情報発信の役割を担っていることにも、改めて気づくことができた。 外国から日本に来た生徒が多く学ぶようになった近年の夜間中学校の傾向について、 ・校内作品展は、2日間実施し、111人の来場があった。併設する四中の学齢生徒(86人)にも見学してもらい、作品を通して交流することができた。会場には感想と共に一言メッセージを掲示するコーナーも設けた。どちらにも生徒の作品を肯定する多くのメッセージが寄せられた。それらを生徒へ還元することで生徒の自己肯定感を高めるとともに、次の作品作りの意欲にもつなげることができた。 ○年度末に発行している文集『まなびや』は、文字による表現活動の集大成である。生徒の努力が形として結実し、生徒の自信を高めることができた。また、関係団体へ送付することで、広報・情報発信に大いに資することができた。 (今年度の送付先) 近畿夜間中学校連絡協議会加盟校 18校
--	---

	豊中市立小中義務教育学校 55校 豊中市教育委員会関係部局 20箇所 豊中市立図書館 8箇所 豊中市立公民館 4箇所 豊中市立人権平和センター 2箇所 公益財団法人とよなか国際交流協会 1箇所 大阪府教育庁による学校訪問時の配布 20冊						
	③日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方 (1) 翻訳文書の活用 ○「在留資格についての基礎知識」教材を作成し、本校で生徒が多いネパール語に翻訳した。渡日の外国人生徒が将来、日本で経済的に自立した生活を送ることができるかどうかは、在留資格に大きく左右される。そのため、在留資格についてまとめた資料を作成し、ネパール語に翻訳した。生徒の進路指導の際に活用し、進学後のキャリア形成に役立てている。今後は他の言語にも翻訳したいと考えている。 (2) 通訳者派遣 ○今年度の通訳者派遣支援は、38回、76時間実施した。 内訳 <table> <tr> <td>入学希望者面談</td><td>17件</td></tr> <tr> <td>総合健康診断、各科健診</td><td>10件</td></tr> <tr> <td>学期末懇談</td><td>11件</td></tr> </table> (3) アンケート実施による効果検証 ○通訳者派遣支援実施後、生徒に実施したアンケートでは、「通訳者派遣が助けになったか」という質問に対して、 「とても助けられた」…73%、「すこしは助けられた」…27%であった。生徒全員が肯定的回答な回答であったことから、通訳者派遣が非常に有効であることがわかる。昨年度は通訳者の方言と生徒の方言がマッチせず「あまり助けにならなかった」の回答も見られたが、今年度は派遣の際にマッチングに留意した結果、すべての派遣において、生徒の実態に応じた有効な支援がなされたと考える。	入学希望者面談	17件	総合健康診断、各科健診	10件	学期末懇談	11件
入学希望者面談	17件						
総合健康診断、各科健診	10件						
学期末懇談	11件						